

## 自院のプロフィール

- 富山県内唯一の**特定機能病院**
- 17部門49診療科**を擁し、専門的治療を行う各センターを設置。高度・先進医療を提供
- キャンパス内に**医学部（医学科・看護学科）**・**薬学部・和漢医薬学総合研究所**・**研究推進機構**などが併設

## 自院をめぐる状況

- 富山県における**人口減少・高齢化**
- 第8次富山県医療計画（2024.3.「**医療機能の分化・連携の推進**」）、「**医療従事者の確保育成と資質の向上**」などが課題）
- 医師の働き方改革**（B水準、連携B水準、C-1水準）



地域医療機関・医師会



地方自治体

**教育**  
高度医療人の養成・輩出

**診療**  
高度先進医療・質の高い医療の提供

**研究**  
高度専門医療を支える研究の推進

**地域医療**  
地域医療機関との連携の推進「最後の砦」

4つの役割・機能

ビジョンの実現 = 改革プランの基本方針

- 働き方改革**に伴う医師の労働時間適正化と本院の**役割・機能の維持・推進**の両立
- 職員一人ひとり**が誇りと自信を持っていきいきと働く**魅力ある職場**の実現

実現

本院の役割・機能を確実に果たし続けるためのエンジン

- 自院のウェブサイト公表
- 自主的・自律的に計画を実施
- 実施状況を定期的に自己点検（毎年度6月頃）
- 点検結果を改善につなげ**不断の改革**を推進

活用

## 富山大学附属病院改革プラン

### 特に重点的に推進する5つの取組み

#### イ) 地域医療を担う高度医療人の養成



- 専攻医の採用者数 →第3期中期目標期間の平均値(43.6人)より増加
- 診療看護師(NP)の採用者数 →6年間で6名以上
- 看護師特定行為研修修了者数 →毎年5名以上、6年間で30名以上

#### ロ) 高度専門医療を支える研究の推進



- 創薬シーズの数 →6年間で延べ24件以上
- 臨床研究開発推進センターが中心となり、本院を主機関とする臨床研究の実施数 →6年間で3件以上
- 附属病院医師の研究時間 →令和5年度(週12時間/人)から10%増加
- 論文数 →令和4年度(138報)から20%増加

#### ハ) 救急医療・地域医療連携の体制強化



- 救急医療に係る人材の確保 →6年間で6名以上採用
- 全診療科の協力による救急医療体制の強化
- 地域医療機関との連携強化と医療機能分化の推進

#### ニ) 高度医療人の確保・偏在対策



- 近隣県(上越・飛騨等)も含めた地域医療機関への医師派遣数 →毎年16人増加
- 富山県医師適正配置等調査の活用 →医師偏在地域の解消等
- 「地域枠」等による県内の薬剤師確保支援 など

#### ホ) 職員のウェルビーイング向上



- (働き方改革, タスク・シフト/シェア)
- 医師の時間外労働の縮減 →院内における平均時間外労働時間を374時間までに短縮
- 病院全体での働き方改革推進による全職員のモチベーション向上 など

タスク・シフト/シェアを進めることにより、医師の教育・研究時間を確保し**4つの役割・機能**を一層推進するとともに、職員のウェルビーイングを向上させる。

### (1) 運営改革

- LDP (Leadership Development Program) 事業修了者数 →6年間で18名以上
- オンライン会議実施率 90%以上
- 令和6年度「国立大学法人富山大学附属病院 医師労働時間短縮計画」の取組み目標 →タスク・シフト/シェアの各項目における目標の達成
- 富山県からの寄附講座の設置 (現2講座) →6年後も継続して設置 など

### (2) 教育・研究改革

- シミュレーションセンターでの医行為教育実績の増加 →6年後までに100%
- 医師やコメディカル職員の各種専門的な研修受講数 →令和4年度(196件)から10%増加
- 臨床研究支援者(CRC、データマネジャー等)数 →6年間で4人以上
- 研究医養成プログラム受講者支援事業による支援者数 →毎年1名以上、6年間で6名以上 など

### (3) 診療改革

- 電子処方せんシステムの利用率 →6年後に院外処方箋発行件数(年間)に対して40%以上
- 電子カルテ情報共有サービスの導入・活用 →システムの導入と活用
- ジェンダーセンターのGID学会認定施設取得
- 第一種感染症病床の設置と第一種感染症指定医療機関の取得
- ICU増床とHCU病棟の設置による高度医療の継続 など

### (4) 財務・経営改革

- 診療報酬請求額 →令和2年度実績より毎年増加
- 富山大学附属病院再整備計画(救急部門の改修・増築を含む。) →再整備事業計画の完了
- CO<sub>2</sub>実排出量の削減 →6年後に312t-CO<sub>2</sub>/年を削減
- 採用医薬品数 →6年後までに2,000品目以下
- 各年度の収入・支出決算額 →毎年継続して収支黒字を計上 など